

2022年度 再発防止策の実施状況の概要

I 意識面の対策

1. 河川法令等遵守意識に関する社員教育

水利使用に係る業務に携わる関係者に河川法等を正しく理解させることを目的に、下記の教育を継続的に実施しました。なお、発生の経緯や関係地域の皆様への信頼回復に向けた取組みについて発電部門以外に範囲を広げて積極的に講演を行い、不適切事象の風化防止に取り組みました。

- ① 河川法等の内容に関する教育
- ② 水利使用規則、社内規程類に関する教育
- ③ 異常時対応に関するロールプレイング訓練等
- ④ 技術者倫理教育
- ⑤ 不適切事象に関する教育

2. 他部門経験者の継続的な配置

他部門を経験した人材や他部門出身者の人材の配置を継続的に行いました。

- ① 管理職社員に他の部門経験者を配置
- ② 共通業務担当社員の他部門からの配置
- ③ 河川法に係る業務を扱う担当助役の定期的異動の実施

II 仕組み・制度の改善

3. コンプライアンス体制の維持・継続

「発電部門のコンプライアンス上の問題を、会社として適時適正に把握する仕組み」と、「発電部門の業務執行について、社内外の視点で定期的に監査を行う体制」を維持・継続しました。また、水力発電のコンプライアンスに係る情報収集強化を図りました。

- ① 内部・自主業務監査による業務の点検
- ② 信濃川発電所運転に関する業務監査の実施
- ③ 水力発電のコンプライアンスに係る情報収集強化
ダム管理主任技術者研修、他社との連絡会の実施、大口自家発電施設者懇話会へ参加
- ④ 内部統制強化に向けた取組み

4. トップマネジメントによる再発防止策の確認・検証

具体的な再発防止策の実施状況と効果及び継続的取組み方針について、全社を挙げて議論・検討したうえで、常務会（現グループ経営会議）にて報告・確認し、不適切事象の再発防止と関係地域の皆様への信頼関係維持に向けた取組みを着実に推進しました。

5. 河川法令・社内規程に基づく適切な業務執行の取組み

放流量の適切な管理を目的として、宮中取水ダム洪水吐3～5号ゲート両端へ直読式開度計を新設し、全ての洪水吐ゲートへの設置が完了しました。これによりゲート両端の開度差発生を迅速に把握することが可能となりました。

- ① 取水量・放流量の適切な管理
- ② 河川管理者への事前相談の実施
- ③ 河川法申請業務に関するノウハウの蓄積・展開
- ④ 河川環境モニタリングの継続実施

6. ISO9001による適正な業務運営と継続的業務改善

信濃川発電所における水利使用に係る業務の厳正と透明性向上のために認証登録したISO9001により、適正な業務運営及び継続的改善を行いました。
(内部品質監査2回、更新審査を行い、内規改定などの改善を実施)

III 透明性の高い職場風土の醸成

7. 地域自治体等との連携

透明性の高い職場風土を構築するために、地域自治体との連携を継続すると共に、地域と共生するための地域貢献を実施しました。

- ① 小千谷発電所一般公開
- ② 宮中取水ダム・千手発電所設備見学会

このほかにも、地域と共生するための地域貢献を、積極的に実施しました。

8. 本社と現場のコミュニケーション

- ① 経営層からメッセージを伝え、現場把握を実施しました。
- ② エネルギー企画部と、信濃川発電所との意見交換会を実施しました。